

二〇二三年八月一日(参加者二名)

古竈 棚に大きな渋 団扇	たか子
盛夏でもダッシュ 百段部活生	かかし
状差しの上段 団扇の定位置に	素 秀
透きし絵は五重の塔や奈良 団扇	こすもす
焼鳥の煤 汚れせし渋 団扇	はく子
太陽の塔は真夏の雲 背負ふ	よう子
寿司のシャリ 煽ぐ年期の古 団扇	もとこ
幼な日の寝しなの祖母の 団扇風	ぼんこ
広島を思ふ 真夏の空ま青	わかば
鉄骨のビル 組み上がる盛夏かな	豊 実
ジーンズの さらりと乾く盛夏かな	明日香
裾たくり帯に 団扇や辻回し	ふさこ
入院のベッドに 孫の手と団扇	うつぎ
団扇の手止まると 見れば軒かな	うつぎ
夏旺ん大泣きの子を 持て余す	満 天

源氏名の 団扇を壁に京割 烹 　　もとこ

夏盛ん掘り起こされし 不発弾 　　うつぎ

ネックレス肌 張りつく盛夏かな 　　なつき

北斎の怒濤の 団扇よりの風 　　あひる

WEB句会みのる選・二〇二三年八月一日